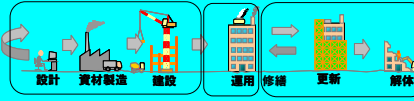




## 重点評価

■使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

<b>1 総合評価の結果</b>				
建物名称	(仮称)DPL小田原 新築工事			
BEE(建築物の環境効率)	2	BEEランク	A	★★★★☆

<b>2 重点項目への取組み度</b>				
重点項目	評価		劣る	よい
<b>地球温暖化への配慮 (ライフサイクルCO<sub>2</sub>)</b>  地球温暖化の主因である二酸化炭素の排出削減対策に関する項目 LCCO <sub>2</sub> (ライフサイクルCO <sub>2</sub> ): 建設してから解体するまでの建築物の一生(ライフサイクル)で使われる資材・エネルギーをCO <sub>2</sub> 排出量	LCCO <sub>2</sub> 排出率	72%		
	<b>ヒートアイランド現象の緩和</b> ヒートアイランド現象(=都市部の気温が周辺部よりも高くなる現象)を緩和する対策に関する項目	スコア	2.5	

### 3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア (5点満点 平均スコア=3点)

地球温暖化への配慮	レベル	評価のポイント
LR3/1 地球温暖化への配慮	4.1	標準計算によるLCCO <sub>2</sub> (ライフサイクルCO <sub>2</sub> )排出率を評価
建設	LR2/2.1 材料使用量の削減	2
	LR2/2.2 既存建築躯体等の継続使用	3
	LR2/2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	5
運用	Q1/2.1.2 外皮性能	-
	LR1/1 建物の熱負荷抑制	5
	LR1/2 自然エネルギー利用	3
	LR1/3 設備システムの高効率化	5
修繕更新解体	LR1/4 効率的運用	3
	Q2/2.2.1 躯体材料の耐用年数	4

ヒートアイランド現象の緩和	レベル	評価のポイント
Q3/3.2 敷地内温熱環境の向上	2	熱的な悪影響を低減する対策(敷地内へ風を導く、緑地や水面を確保する、建築設備による排気や排熱の位置等に配慮するなどにより暑熱環境を緩和する対策)を評価
LR3/2.2 温熱環境悪化の改善	3	温熱環境の事前調査、敷地外への熱的な影響を低減する対策、温熱環境悪化改善の効果の確認に関する取組み度合いを評価

関連項目	レベル	評価のポイント
LR2/1.1 節水	4	節水への取組み度合いを評価
Q3/1 生物環境の保全と創出	2	生物環境の保全と創出に関する配慮(立地特性の把握と計画方針の設定、生物資源の保全、緑の量・質の確保、生物環境の管理と利用など)を評価

<b>主な指標および効果</b>	
LCCO <sub>2</sub> の削減率 (= 1-「LCCO <sub>2</sub> 排出率」)	28%
<b>設計上の配慮事項(自由記述)</b>	
「躯体+軽鉄+仕上げ材」により、躯体と仕上げ材が容易に分別可能。それにOAフロアを利用している。 高規格電炉銅板を利用している。 節水コマなどに加えて、節水型便器も採用している。	

<b>再生可能エネルギーの導入状況</b>			
種類	有無	種類	有無
太陽光	○	バイオマス	-
定格出力 (22kW)	22.05	温度差熱	-
		水力	-
太陽熱	-	地熱	-
風力	-		

■ : 入力欄

■ : CASBEE-建築(新築)の採点結果から転記してください。